

令和5年度第2回過疎問題懇談会 議事概要

(開催要領)

1. 開催日時：令和6年3月27日（水）15：30～17：30
2. 場 所：中央合同庁舎2号館902会議室、オンライン
3. 出席者
 - ・座長：小田切徳美 明治大学農学部教授
 - ・委員：井上あい子 ai株式会社代表取締役
 - 作野 広和 島根大学教育学部教授
 - 高橋 由和 NPO法人きらりよししまネットワーク事務局長
 - 筒井 一伸 鳥取大学地域学部地域創造コース教授
 - 沼尾 波子 東洋大学国際学部国際地域学科教授
 - 人羅 格 毎日新聞論説委員
 - 広井 良典 京都大学人と社会の未来研究院教授
 - 山内 昌和 早稲田大学教育・総合科学学術院教授

(議事次第)

- 1 開会
- 2 議事
「場」に関する調査結果
- 3 閉会

(資料)

- 資料1：これまでの議論の方向性
- 資料2：「場」の具体例に関する調査結果
- 資料3：「場」に関するアンケート調査結果
- 資料4：調査結果のまとめと今後の論点

(議事概要)

- 事務局説明後、各委員からコメント。

主なコメントは以下のとおり。

- ・「場」の活動内容として、飲食、特産品づくり、観光、商店などの機能面を強化していくのか、住民交流や健康づくりのような取組を強化していくのか、議論が必要ではないか。
- ・ハードと直接連動しない場もあり、出張型の「外へ出て行く仕組み」により着目すべきではないか。例えば、奈良県川上村ではコミュニティナースが活動しており、酒田市日向コミュニティ振興会では、コミュニティセンターに集まるのが難しいことから、「出張するコミュニティ」を合言葉に、拠点から広がる仕組みをつくっている。
- ・場のソフト面を支援していくことが重要であり、集落支援員や地域おこし協力隊の効果は大きい。

- ・地域によっては、光回線の整備だけでなく、衛星通信・ポケットWi-Fiの活用など情報通信網整備の工夫が必要。
- ・地域づくり活動を行う際の事務局機能に対する後方支援や、デジタルデバイド対策の強化が必要。
- ・デジタル住民など定住していない関係人口の数値もとれるとよい。
- ・拠点としての場の持続性をどう担保していくかが重要。廃校などの管理の問題も生じるが、隼ラボのように民間が主体となって管理するのが良いモデルになるのではないか。
- ・集落公民館がなかなか活用されない要因として、バリアフリー化や水洗化、移動の足の確保などの課題がある。
- ・人を「集める」観点と、住民が自発的に「集まる」観点の両立が必要であり、世話人となる担い手の育成も重要。
- ・ハードとしての場の前提として、その地区に人が集まりたくなる通りや景観（景色）があるかということも意識しておくことが必要ではないか。
- ・場の担い手について、農業生産法人や社会福祉協議会、学校、観光協会など広域的に特定の機能を担う主体と、自治会など集落単位での主体との間で、連携や応援する体制が必要ではないか。
- ・若年人口を増やすためには、産業を維持し、働く場を確保することは重要。集落単位でも産業を含めて考える必要がある。
- ・移動の足の確保をどうしていくが課題。
- ・場を支えるための財政需要をどう捉えるか。地域社会再生事業費が充足しているか、過疎対策の観点からも考える必要がある。
- ・場の定義をしっかりとさせるべき。場には、物理空間以外にもネット空間もあり、人と人との心のつながりがあると感じる。
- ・人が重要であり、人材によって場が機能している。その点で、人材育成や、質の伴った担い手を確保する必要。郵便局など住民以外の活動も重要。
- ・場と人口増減の関係はないという結論は妥当。地域の元気度・幸せと人口増減は比例しないのではないか。
- ・今後の過疎対策として何を出口にするか現場は見えなくなっている。コミュニティの維持・活性化とは何か、住民は答えが見えないと、やる気を失ってしまう。懇談会として何らか提起する必要があるのではないか。
- ・ガソリンスタンド、廃校、古民家などの未利用ストックを有効活用する観点が重要。
- ・場の具体例を場所・機能・主体などの軸ごとにマトリックスで整理し、成功事例を共有してはどうか。
- ・人口が少なくとも持続的な社会をどう作っていくか、いわば人口減少への適応策が重要。人口を直接の目的とすべきではないが、社会増は、にぎやかな過疎、持続的な人口維持に寄与している。
- ・地域を維持するため必要最低限の人口は必要。より重要なのは、健全な人口構成を維持すること。
- ・担い手と主体が重要。まずニーズを拾い上げたうえで、どのような後押しが必要か考えるべき。
- ・場ができるにあたって、特に人材が重要だという結論。集落支援員や地域おこし協力隊

などの人材がいるが、集落支援員には光が当たっていないという指摘もある。

- ・場は、様々な世代が出会い、触発する場所であり、何かを共有する場所。特に時間の共有という観点が重要。
- ・「持続的な場」もキーワードになる。
- ・時間の共有という観点からは、対話を通して得られた知識・知恵・技がどうストックされているかが重要。
- ・新たな人材の確保に向け、大学などの既存の人材育成システムとの連携を考えるとともに、既存の人材の確保には、例えば郵便局などの力も重要。
- ・女性の居心地の良さが人口移動と関係している。女性のIターンで活力が出ている例もある。
- ・担い手として企業も考えるべき。最近ではローカルやコミュニティへの企業の関心も高く、雇用につながる可能性がある。

以上